



ミニミニマインズ 博物館だより

平 18.2.20 第 134 号
秋田大学工学資源学部
附属 鉱業博物館



☆ 秋田中央郵便局が企画した「平成・私がお薦めする秋田の観光スポット」
の 10 位までの絵はがきが、10 枚 1 組(700 円)で 1 月 23 日から、各郵
便局で発売になりました。

1 位になった鉱業博物館の絵はがきは、博物館売店でも販売できるようになり、1 枚 (70 円) 単位で購入できます。当博物館で販売して約一ヶ月、大変好評でこれまで 800 枚の購入がありました。高台にあるこの博物館は四季折々の景色が素晴らしく、その中でも博物館へ向かう坂道の桜のトンネルは見事です。この絵はがきを通して多くの方に、この博物館に足を運んでもらえるきっかけになってくれればと思います。



絵はがき 1 枚 70 円

売店商品のご案内

当博物館売店のオリジナル商品をご紹介します。学部のシンボルマークの入った黒鉱文鎮、黄鉄鉱文鎮、ペーパーウエートは、贈り物にも喜ばれ大変好評です。

「黒鉱」は日本を代表する鉱石であり、黄銅鉱・方鉛鉱・閃亜鉛鉱などの鉱物から構成されています。黒鉱は、銅・鉛・亜鉛・バリウムなどを主成分原料として含むほか、金・銀・ガリウム・ゲルマニウム等を副成分元素として含む多種金属含有鉱石です。世界的にも専門用語として **kuroko** が適用します。秋田県の鉱業生産量は日本の最上位クラスにランキングされ、黒鉱はその秋田県の代表的な鉱石です。黒鉱文鎮に使われている黒鉱は大館市花岡鉱山産のものです。HPの **kuroko** は黒鉱を意味します。

「黄鉄鉱」は英名でパイライト (pyrite) といい、鉱山用語で硫化といいます。この鉱物は結晶の形が立方体や五角十二面体を示し、淡い真鍮黄色の美しい金属光沢を示すことから、人気があります。黄鉄鉱は化学組成 (FeS₂) が鉄とイオウの元素からできているため、金属鉱山だけに産出するのではなく、どこにでも産出する (生成条件が広い) 鉱物です。硫化鉱物がたくさんある中では最もポピュラーな鉱物です。黄鉄鉱文鎮に使われている黄鉄鉱は小坂鉱山元山鉱床から採取したものです。

ペーパーウエートはガラス工房で一つ一つ手作りで丹念に作られ、ピンク、ブルー、グリーンの 3 色あります。ガラスの着色成分として、ブルーには、酸化コバルト (Co₃O₄)、グリーンには、酸化クロム (Cr₂O₃) や酸化銅 (CuO) が含まれ、ピンクには、酸化エルビウム (Er₂O₃) や酸化ネオジウム (Nd₂O₃) がやや多く含まれており、二色性ガラス (白色光や太陽光ではピンク 蛍光灯ではブルー) の性質を示します。部屋の中に置いておくと、光の具合で様々な表情が伝わってきます。



黒鉄文鎮

大 2,000 円 (6 cm × 6 cm)

小 1,300 円 (5 cm × 5 cm)



黄鉄文鎮

大 2,000 円 (6 cm × 6 cm)

小 1,300 円 (5 cm × 5 cm)



ペーパーウエート (直径 6 cm)

各 2,000 円

～博物館 展示品から～デスモスチルス (1500万年前の化石)



大陸から分かれてきた日本列島は、1500 万年前にほぼ現在の位置に落ち着きました。当時の日本海の周辺には多くの島が浮かび、島と島のあいだの海は浅かったのです。海中には、貝をはじめとして様々な動物がすんでおり、北太平洋にすんでいたほ乳類のデスモスチルスも、海と島の海岸を生活の場にしており、草や海藻を食べていました。

19 世紀の終わり頃、歯の化石が発見され、

デスモスチルスの臼歯の化石 1933 年には、サハリンで全身骨格が発見さ

産出地 羽後町軽井沢 れ、4 本足の動物であることがわかりました。

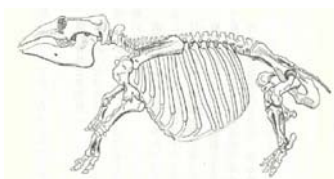
2 階化石コーナー

全長は 3 メートル 前後で、カバのような体型を持っていました。歯や骨格が非常に特殊

で、臼歯がのり巻きを束ねたようなその形から、ギリシア語の デスモス (束) とスチルス (円柱) を合わせて「デスモスチルス」と名付けられました。秋田県でも、羽後町から 4 個の臼歯の化石が、男鹿市から下あごが発見されています。男鹿半島の西黒沢地層をはじめ、須郷田層や尻高層、早口川層は、1500 万年前の浅い海に積もった砂からできた地層です。海は暖流が流れていて暖かく、熱帯から暖帯海域の有孔虫であるオパキュリナやミオジプシナなどが、秋田やもっと北まで分布を広げたのです。デスモスチルスなど絶滅した動物の骨格を組み立てるのは大変難しいのですが、これまで様々な形に復元され、現在も研究が進められています。



デスモスチルスの犬塚復元



デスモスチルスの犬塚骨格

参考資料 秋田県立博物館「総合案内」と「展示案内」
「デスモスチルスの復元」海鳴社

～ボランティア会員へのお知らせ～

(事務局 長谷川)

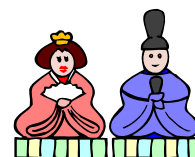
☆ 編集や校正に手間取って発行の遅れていたマインズ Letters22 号を先月ようやく発送できました。遅くなってすみませんでした。如何だったでしょうか。

☆ **2 月の例会: 2 月 23 日(木) 13 時 30 分から開催します。** 例会後の学習会は、林会長からの「鉱物入門」と題しての講話を予定しています。ご期待下さい。

☆ 活動状況: 記録すべき案内活動は特にありませんでした。

☆ **3 月の事務局会議: 3 月 16 日 (木) 10 時から開催します。**

☆ **3 月の例会: 3 月 23 日 (木) 13 時 30 分から開催します。**



☆ 寄贈本の紹介: 林会長から 60 種の本、雑誌、資料が寄贈されました。主なものは、放送大学教育振興会発行の「大地と人間」「現代資源論」「日本列島の地球科学」「物質の科学」「地球像の変遷」「産業と資源」などの他に「失われた化石記録」「カンブリア紀の怪物たち」「地球システム科学入門」などなど・・・興味津々の資料が多々ありますので、どうぞご覧下さい。